

# 第69回研究大会プログラム

JAPAN SOCIETY for the STUDY of ADULT and COMMUNITY EDUCATION : the 68th Annual Conference

日時 2022年9月16日(金)～18日(日)

オンライン(ZOOM)開催

運営校：北海道大学

9月 16日 金	10:00～12:10		13:00～15:30	16:00～18:00
	自由研究発表 1・2・3・4・5		プロジェクト研究 「SDGsと社会教育・生涯学習」 「障害をめぐる社会教育・生涯学習」	運営校企画 「当事者研究と民主主義」
17日 土	10:00～12:10		13:00～15:00	15:30～16:30
	自由研究発表 6・7・8・9・10		70周年準備企画	倫理研修
18日 日	10:00～12:10		13:00～15:30	16:00～18:00
	自由研究発表 11・12・13・14・15		プロジェクト研究 「社会教育士養成の可能性と課題」 「余暇・レクリエーションの再検討」	ラウンドテーブル ①～⑤

**当日の参加受付はありません**

**事前参加申込みシステム受付期間：8月10日(水)～9月4日(日)**

※事前参加申し込み方法は2ページ参照のこと。

\*参加費(事前振込)：一般・非会員大学院生1,500円 / 会員大学院生1,000円  
大学学部生は無料(但し、学生証提示のこと)

\*全国理事会は9月24日(土)18時～、総会は10月1日(土)14時～オンラインでの開催を予定しております。

\*若手会員の集い9月21日(水)19時～オンラインで開催。

\*自由研究発表者は、発表要旨を下記受付期間内に〈自由研究発表要旨投稿システム〉にご提出ください。  
→受付期間：7月20日(水)～8月20日(土)

## 【目次】

◇第69回研究大会・事前参加申込について	2頁
◇オンライン開催にあたっての注意事項	3頁
◇第1日目(9月16日)プログラム	
自由研究発表1・2・3・4・5	4～6頁
プロジェクト研究「SDGsと社会教育・生涯学習」「障害をめぐる社会教育・生涯学習」	7～8頁
運営校企画「当事者研究と民主主義」	9頁
◇第2日目(9月17日)プログラム	
自由研究発表6・7・8・9・10	10～12頁
70周年準備企画	13頁
倫理研修	14頁
◇第3日目(9月18日)プログラム	
自由研究発表11・12・13・14・15	15～17頁
プロジェクト研究「社会教育士養成の可能性と課題」「社会教育学における余暇・レクリエーションの再検討」	18～19頁
ラウンドテーブル①～⑤	20～22頁

## ■事前参加申込について

今回の大会はオンライン開催につき、参加受付は事前申込みのみとさせていただきます。

参加希望の方は、学会ホームページよりオンライン参加登録手続きを行っていただきます（オンラインで手続きが出来ない場合は、事務局までご連絡いただければ手続きいたします）。

なお、今回オンラインでの開催ということで、様々な対応を学会HP（一斉メール）にて通知いたしますので、メールアドレスの登録・確認をお忘れなきようお願いいたします。

当日のZOOMのURL・要旨集等については9月14日（水）までにメールでご案内いたします。大会前日になってもご案内が届かない場合は事務局までお知らせください。

※準備の都合上、お申込み後のキャンセルはご遠慮ください。オンラインでの開催となり、運営校も不慣れでご迷惑・ご不便をおかけすることをご理解いただき、円滑な集会運営にご協力いただければ幸いです。

### ◆オンライン事前参加申込受付：8月10日（水）～9月4日（日）

学会HPのトップ画面にある＜研究大会参加申込システム＞から参加登録をしてください。当日受付はございませんので、必ず事前申込をお願いいたします。

会員の方は、申し込みの際には会員ID（ログインID）を必ず記入し、所属は学会に登録してある所属先を記入してください。

非会員の学部生は、学生証を添付の上、参加費無料になります。

### ◆参加費の支払い：事前振込

※こちらで入金の確認が出来ない場合は参加申込みを受付出来ない場合があることご了承ください。

＜振込先＞ ゆうちょ銀行 振替口座 00150-1-87773

他金融機関からの振込用口座番号 ○一九（ゼロイチキュウ）店（019）当座 0087773

口座名：日本社会教育学会

振込金額： 会 員 一般 ¥1,500 / 大学院生 ¥1,000

非会員 一般 ¥1,500 / 大学院生 ¥1,500

振込みの際には、必ず氏名（所属）をご記入ください。

※参加費の振込のみ、または参加申込みのみだけでは参加受付とはなりませんのでご注意ください。

## ■オンライン開催にあたっての注意事項

- ・本大会では、すでに多くの大学等での実績があるオンライン会議システム「Zoom」を使用します。
- ・オンライン会議室では最大接続数があり、これを越えると入室することはできません。あらかじめご了承ください。また、多くの皆様に参加していただくため、1人の方が複数の端末を使って複数の発表に同時にアクセスすることをご遠慮ください。
- ・基本的に、録画による受信映像や画面共有資料の保存（画面キャプチャーを含む）、録音、再配布を禁止します。ただし、発表者や主催者の許可があった場合はその限りではありません。
- ・チャット機能を使用して当日に資料を配付することがありますが、配布後に参加した場合はその資料をダウンロードできないことがあります。
- ・無用な音声の流入・ハウリングや、不安定なネットワークからの接続などによりセッションの進行に支障があると判断される場合には、ホスト側によりミュート操作を行ったり、接続を切断したりする可能性があります。
- ・その他、進行にあたっては司会者・ホストの指示に従っていただけますようお願いいたします。

## ■大会へのお問合せ・ご連絡先

### ◆日本社会教育学会事務局

E-Mail : [jssace.office@gmail.com](mailto:jssace.office@gmail.com)

〒183-8509 東京都府中市幸町 3-5-8 東京農工大学農学部環境教育学研究室内

<https://www.jssace.jp/>

### ◆大会当日の連絡先

担 当：宮崎隆志（北海道大学）

E-Mail : [miyazaki@edu.hokudai.ac.jp](mailto:miyazaki@edu.hokudai.ac.jp)

Tel : 011-706-3495

辻 智子（北海道大学）

E-Mail : [tsujitomoko@edu.hokudai.ac.jp](mailto:tsujitomoko@edu.hokudai.ac.jp)

Tel : 011-706-3090

## 自由研究発表 1・2・3・4・5

10:00 ~ 12:10 (共同研究者は○印が登壇者)

### 第1室 原理論・思想

---

司会 松岡 廣路 (神戸大学)

10:00 ~ 10:20 パウロ・フレイレの教育論再考

— inédito viável(untested feasibility) に着目して—

酒井 佑輔 (鹿児島大学)

10:20 ~ 10:40 ナショナリズム研究からのグロントヴィ主義再考察

田淵 宗孝 (羽衣国際大学)

10:40 ~ 11:00 「社会政策的あるいは社会事業的社会教育論」の理論的検討

—社会連帯思想の位置づけをめぐって—

大村 隆史 (香川大学)

11:00 ~ 11:40 フィールドにおける<教育する空間>

○前平 泰志 (畿央大学)、○生駒 佳也 (四国大学・非常勤)

○猿山 隆子 (関西福祉大学)、○鈴木 伸尚 (大阪公立大学)

○奥村 旅人 (同志社大学)

(11:40 ~ 12:10 全体討議)

## 第2室 原理論・歴史

---

司 会 野依 智子（福岡女子大学）

10：00～10：20 伊藤寿朗地域博物館論形成過程の考察：豊橋向山天文台・大池児童館から  
御園高原自然学習村に至る金子功の実践を中心に

栗山 究（東京女子大学・非常勤）

10：20～10：40 戦後社会教育史研究における地方社会教育史の視角の可能性と課題の検討  
—北部九州産炭地の教育・文化運動の視点から—

農中 至（鹿児島大学）

10：40～11：00 高度成長期における団地住民の学習活動と自治会、社会教育行政  
—新中間層の学習と集団形成、地域社会をめぐる考察—

久井 英輔（法政大学）

11：00～11：20 福尾武彦の民主的社会教育論における学習の概念：

「大衆運動の学習的側面」に着目して

堂本 雅也（大阪教育大学・非常勤）

（11：20～11：50 全体討議）

## 第3室 学習文化活動

---

司 会 村田 和子（和歌山大学）

10：00～10：20 学習者との協同作業で創る学習リソースの提案

本間 淳子（東洋大学）

10：20～10：40 学校と地域社会との協働の今日的展開

孫冬梅（東北大学大学院）

11：40～11：00 長期的展望に立った実践分析研究の方法に関する研究

—記録を読むことと共同学習の組織化—

矢内 琴江（長崎大学）

11：00～11：40 高度経済成長期社会教育史研究（4）

—3つの公民館報に見る地域変貌と住民の学習—

○徐真真（静岡大学）、辻 浩（名古屋大学）

○竹井 沙織（名古屋大学）、大村 隆史（香川大学）

王倩然（北海道大学）、二村 玲衣（岐阜大学）

（11：40～12：10 全体討論）

## 第4室 学習機会

---

司 会 上田 孝典 (筑波大学)

10:00～10:20 米国大学における地域連携専門人材のコンピテンシー・モデルの検討  
五島 敦子 (南山大学)

10:20～10:40 持続可能なコミュニティにおける「教育景観」:  
ドイツの“ESD コミュニティ”のアクターとネットワーク分析から  
高雄 綾子 (フェリス女学院大学)

10:40～11:00 生涯学習プラットフォームによる学習支援の可能性  
藤田 公仁子 (富山大学)

11:00～11:40 市民と市民・市民と行政のパートナーシップを育む学習コミュニティ形成  
～社会教育委員関係者の協働によるラウンドテーブル実践「あきしま会議」から

○二ノ宮リムさち (東海大学)

○近藤 牧子 (早稲田大学・非常勤)

(11:40～12:10 全体討論)

## 第5室 地域・地域問題

---

司 会 田中 雅文 (日本女子大学)

10:00～10:20 地域社会の再編と社会教育・生涯学習 I  
—行政の地域公民館の位置づけ—

植村 秀人 (南九州大学)

10:20～10:40 地域のコミュニティーづくりにメディアが果たす役割  
末永 貴哉 (早稲田大学大学院)

10:40～11:00 地域防災教育における自治体職員の役割と課題  
斉藤 雅洋 (高知大学)

11:00～11:20 震災復興から「観光まちづくり」への可能性  
—宮城県女川町を事例にして—

朴賢淑 (仙台青葉学院短期大学)

(11:20～11:50 全体討論)

# プロジェクト研究

「SDGsと社会教育・生涯学習 —持続可能な地域と学びづくり—」

13:00~15:30

## SDGsのインパクトに応える社会教育・生涯学習の未来

司会 荻野 亮吾 (佐賀大学)

孫美幸 (文教大学)

報告① 「プロジェクト研究の到達点と今後の課題」

田中 治彦 (上智大学)

報告② 「SDGsに応える社会教育 —アクティブ・シティズンシップ涵養の観点から—」

近藤 牧子 (早稲田大学・非常勤)

報告③ 「SDGs運動に対応する学習論・組織論」

松岡 広路 (神戸大学)

本プロジェクト研究は、2020年度研究大会を皮切りに、SDGsと社会教育・生涯学習の相互の関係を探究してきた。2021年度六月集会・研究大会、2022年度六月集会と、6回の公開研究会を経て、国際的・臨床的実態を踏まえながら、プロジェクト研究の出発点で掲げた原理論・学習論・組織論の3つの視点を軸に、SDGsをめぐる新しい社会教育の外形・内実を探ってきた。

今回の研究大会では、3年間の研究の総括として、SDGsのインパクトに応える社会教育・生涯学習の未来を論じることにした。具体的な論点として、①環境教育・開発教育・福祉教育等のSDGsに関連するテーマ型教育を、社会教育・生涯学習の実践において総合的に実質化するためには、どのような方法や組織が求められるのか、②SDGs運動において期待される各課題の連動的な動きを生み出す上で求められる社会教育・生涯学習の方法や課題はどうあるべきか、③グローバルな運動への参加・関与を促進する上で社会教育をどのような役割を持つものとして構想しえるのか、等が挙げられる。こうした実践的な問いを意識しつつ、実践・研究の現在の到達点とその未来に向けての展望や課題を論じる。

# プロジェクト研究

「障害をめぐる社会教育・生涯学習」

13:00~15:30

## 障害をめぐる学びの場における「マジョリティ性」について

—実践のミクロな様相から—

司会 島本 優子（徳島市役所）

梨本 加菜（鎌倉女子大学）

課題提起 『「マジョリティ性」とは』

堤 英俊（都留文科大学）

報告① 「みらいづくり大学校の実践場面における『マジョリティ性』」

松井 翔惟（北海道大学大学院／医療法人 稲生会）

報告② 「知的障害のある青年が参加する大学教育における対話的实践を介した

『マジョリティ性』の中断」

井上 太一（神戸大学大学院）

コメンテータ 堀川 修平（埼玉大学・非常勤）

本プロジェクト研究における「障害の問題を社会の問題として捉える」という視点を引き継ぎながら、今回の企画では、障害をめぐる学びの場のミクロな様相に焦点を当て、その場に立ち表れる「マジョリティ性」について検討を行う。

今回の鍵となる「マジョリティ性」という概念であるが、中心-周縁の権力関係が、健常／障害のみならず、人種、性、経済階層、世代、その他の社会的属性において複雑に交差し、各場の文脈によって構図がダイナミックに変化しているという認識のもとで取り上げるものである。さしあたり、先行する「マジョリティ性」研究、すなわち白人性研究や男性研究などの視点に学びながら、障害をめぐる学びの場の日常場面においてどのような「マジョリティ性」が立ち表れているのかについて分析することを試みていく。

上記のような課題提起の上で、まず、松井翔惟会員からは、障害の有無によらずともに学ぶ場づくりを目指している「みらいづくり大学校」で行われた「重症心身障害者と『ともに』学ぶプロジェクト」の実践について、コミュニティの変容に着目して報告いただく。

次に、井上太一会員からは、知的障害のある青年らが大学教育に参加する「神戸大学 学ぶ楽しみ発見プログラム（KUPI）」において行われた哲学対話の実践を取り上げ、障害や支援をめぐる潜在する非対称的な二分法の中断の可能性について報告いただく。

2つの報告を通して障害をめぐる学びの場における権力関係の複雑な様相を把握するとともに、それを踏まえて、その学びの場をインクルーシブなもの（脱中心化したもの）にしていくための実践的方途について、参加者とともに考えていきたい。

# 運営校企画

## 「当事者研究と民主主義」

16:00～18:00

### 当事者研究と民主主義

司会 宮崎 隆志（北海道大学）

報告者 向谷地 生良（北海道医療大学・浦河べてるの家）

辻 智子（北海道大学）

コメンテータ 小林 繁（明治大学）

当事者の自己決定性は「医師—患者」のようなミクロなレベルにおける自由や平等概念の再定義、さらには協働（連帯）を実現するうえでの鍵を握る価値であるが、当事者研究はそれにとどまらず、新たな社会を構想する社会運動（マクロなレベルへつながる社会的実践）にも連続する可能性をもつ。社会教育の実践と研究においては、青年団における「一人一研究」や生活記録実践に見られるように、実際生活に内在する課題を意識化し、社会的な実践の主体を形成する可能性が探求されてきたが、当事者研究と社会教育領域のこのような学習実践には重なりもみられるように思われる。他方で、後者では生活課題の意識化からマクロなレベルの意識化や実践への連続が必ずしも見通せなかったという歴史的な経験もあり、当事者研究が現代社会において有するインパクトを明らかにすることにより、社会教育の実践と研究への新たな示唆も得られるように思われる。

## 自由研究発表 6・7・8・9・10

10:00～12:10(共同研究者は○印が登壇者)

### 第6室 原理論・歴史

---

司会 松田 武雄(松本大学)

10:00～10:20 戦前社会教育委員制度の歴史の実態 —委員の性格に着目して—  
松岡 悠和(京都府立大学大学院)

10:20～10:40 大正期から昭和初期における社会教育実践と岩野森之助  
上原 直人(名古屋工業大学)

10:40～11:00 戦時期社会教育行政と農林行政の対立構造に関する批判的検討  
大蔵 真由美(松本大学)

11:00～11:20 大正期図書館児童サービスにおける知識観からみた社会教育  
松山 鮎子(大阪教育大学)

(11:20～11:50 全体討論)

### 第7室 学習文化活動

---

司会 阿知良 洋平(室蘭工業大学)

10:00～10:20 次世代による戦争記憶の継承  
—1980年代の高校生平和ゼミナールによる公共的記憶の創出—  
井上 力省(大阪観光大学・非常勤)

10:20～10:40 動物園における児童文化運動の展開 —お伽倶楽部の活動とその影響—  
原賀 いずみ(東京農工大学大学院)

10:40～11:00 社会教育主体における時間意識の生起に関する考察  
須藤 誠(東京大学大学院)

11:00～11:20 博物館と当事者意識 —わだつみのこえ記念館の訪問活動から—  
新藤 浩伸(東京大学)

(11:20～11:50 全体討論)

## 第8室 学習文化活動・学習機会

---

司 会 林 美輝（龍谷大学）

10：00～10：20 福祉事業型専攻科における知的障害者への自律支援の過程

—「関係的自律」を手がかりに—

鈴木 菖（上智大学大学院）

10：20～10：40 SDGs時代のアイヌ文化学習の可能性

—「アイヌ民族博物館」の成立と展開を主眼に—

岡 健吾（北翔大学）

10：40～11：00 地方都市における地域日本語教室 NGO の現状と課題

—鹿児島市のNGO ATLASを事例に—

○山下 直子（鹿児島大学・非常勤）、酒井 佑輔（鹿児島大学）

11：00～11：40 大阪における識字・日本語学習ボランティア意識調査からみた課題

○菅原 智恵美（大阪公立大学）

○森 実（大阪教育大学名誉教授）、○上杉 孝實（京都大学名誉教授）

（11：40～12：10 全体討論）

## 第9室 学習機会

---

司 会 池谷 美衣子（東海大学）

10：00～10：20 公民館主催事業としての障害者青年学級を通じた障害者の学習権

増本 佐千子（東京農工大学大学院）

10：20～10：40 認知症をめぐる取り組みに対する社会教育からの課題

—徳島県在住者への意識調査をもとに—

鈴木 尚子（徳島大学）

10：40～11：00 公務非正規女性の不自由と職場の構造

—公務非正規女性全国ネットワークの調査から—

廣森 直子（大阪信愛学院大学）

11：00～11：40 生き難さを抱える女性たちの自立に向けた生涯にわたる学習支援に関する

研究 —日本と韓国の事例を通して—

○村田 晶子（早稲田大学）、○熊谷 真弓（社会福祉法人 慈愛会）

○南銀伊（㈱キャンドウコリア）

（11：40～12：10 全体討論）

## 第10室 地域・地域問題

---

司 会 吉岡 亜希子（北海道文教大学）

10：00～10：20 フィリピンにおける日本人結婚移住者の教育観

—コロナ禍による教育意識と実践への影響を中心に—

渡辺 幸倫（相模女子大学）

10：20～10：40 保護者懇談会における親の「学び」の質的考察

—Aこども園クラス別懇談会での「語り」を事例に—

永田 誠（大分大学）

10：40～11：00 戦後のPTA実践をめぐるジェンダー視座からの検討

赤池 紀子（子育て団体「creo（くれお）」）

11：00～11：20 親が育ち合うコミュニティ形成の過程とその課題

丸山 美貴子（北海道大学）

（11：20～11：50 全体討論）

# 70 周年準備企画

13:00~15:00

司 会 笹井 宏益 (玉川大学)

報告① 「過去の CONFINTEA の経緯や特徴、成果文書の意義について」

大安 喜一 (ユネスコ・アジア文化センター／東京医療保健大学)

報告② 「第 7 回会議プロセス (政府と市民社会コミット)、会議概要について」

近藤 牧子 (早稲田大学・非常勤／開発教育協会)

報告③ 「『マラケシュ行動枠組み』策定プロセスと意義について」

三宅 隆史 (シャンティ国際ボランティア会)

コメンテータ 佐藤 一子 (東京大学名誉教授)

70 周年記念にむけて、2021 年の 6 月集会では 60 周年以降の研究総括とポストコロナ期における研究の課題をとりあげ、9 月の研究大会ではこれからの学会活動の新しい在り様をめざして問題提起を受け、2022 年 6 月集会では、実行委員会から 70 周年記念事業の内容や今後の学会として取り組むべき研究や運営上の課題等について発題した。

6 月集会の際に、李副会長から「社会教育学研究における海外研究・国際交流の現状と課題」について報告を受けたが、そこで明らかになったことは、2010 年代以降、海外研究・国際交流の分野における研究が減少傾向にあることである。確かに自由研究発表での量的減少はみられるが、他方で国際化が進む今日、社会教育学の国際的な動向についての関心は低くはない。

そこで今回の準備企画は、今年 6 月にマラケシュ (モロッコ) で開催された第 7 回ユネスコ国際成人教育会議 (CONFINTEA VII) に焦点をあてる。CONFINTEA VII に至る経緯や、議論の概要や焦点について紹介いただきながら、国際的な動向について共通理解をはかっていきたい。そのうえで、本学会の課題について考えることとする。多くの会員のご参加をお待ちしている。

# 倫理研修

15:30～16:30

## 社会調査における研究倫理問題

司会 石井山 竜平（東北大学）

報告① 「社会調査における研究倫理の問題」

堀 薫夫（大阪教育大学名誉教授）

報告② 「フィールド研究における倫理」

谷口 明子（東洋大学）

今回の倫理研修会では、堀薫夫会員と東洋大学文学部の谷口明子教授に社会調査における研究倫理問題についてご報告いただく。まず堀会員からは、社会調査をすすめていくうえでの研究倫理の問題を、資料・文献の渉猟、量的調査、質的調査それぞれにおいて、事例をあげつつ概観していただく予定である。詳しくは、文献研究では文献引用問題を、量的調査では統計に関わる倫理や統計パッケージの濫用について、質的調査では、21世紀になってなぜこの研究法が普及してきたのかについてふれつつ、ナラティブ・ターン現象や質的調査の多様性などについてもお話しいただく予定である。

また谷口氏には、長年心理学分野で研究されてきた研究蓄積をもとに、質的研究の中でも特にフィールド研究に焦点をあてて研究倫理についてご報告いただく予定である。まず大前提としての研究倫理の原則を確認したうえで、フィールド研究における倫理について、研究計画、フィールドエントリー、フィールドワーク中、研究発表、フィールドへのフィードバックという、一連の研究プロセスに沿って、各段階において起こりうる倫理的問題と倫理的配慮について考察していただく。

第3日目 9月18日(日)

自由研究発表 11・12・13・14・15

10:00～12:10(共同研究者は○印が登壇者)

第11室 原理論・歴史

司会 内田 純一(高知大学)

10:00～10:20 疎開者による「地域」の発見

—疎開生活における学校・家庭・地域の連絡・協力関係—

山梨 あや(慶應義塾大学)

10:20～10:40 祖国復帰運動における青年団運動の再検討

—奄美・沖縄の固有性に注目して—

○山城 千秋(熊本大学)、農中 至(鹿児島大学)

10:40～11:00 占領下の憲法普及劇 —検閲台本から見るその性格—

小川 史(横浜創英大学)

11:00～11:40 製糸工場内青年学校の成立・展開と戦後の動向

—岡谷市吉田館青年学校・吉田館自由学園の事例を中心に—

○安藤 耕己(山形大学)、○倉知 典弘(吉備国際大学)

久井 英輔(法政大学)、大蔵 真由美(松本大学)

栗山 究(東京女子大学・非常勤)、竹淵 真由(下諏訪町教育委員会)

(11:40～12:10 全体討論)

## 第12室 学習文化活動

---

司 会 田所 祐史 (京都府立大学)

10:00～10:20 「不合理性」からみる社会教育の主体理解の再考

—伝承者阿部ヤエと歌人阿部八重をめぐって—

岡 幸江 (九州大学)

10:20～10:40 アートを媒介にする創造的学習の成立:

レッジョ・エミリア・アプローチに対する活動理論的分析を通して

蔡越先 (北海道大学大学院)

10:40～11:00 正統文化を支える条件の変化に関する研究:文化経験価値の視座から

亀井 あかね (東北工業大学)

11:00～11:20 感応の場の「芸術家」

鈴木 理仁 (東北大学大学院)

(11:20～11:50 全体討論)

## 第13室 学習機会

---

司 会 若園 雄志郎 (宇都宮大学)

10:00～10:20 COVID-19期の博物館経営

—英米ミュージアムの年次報告書を手がかりとして—

瀧端 真理子 (追手門学院大学)

10:20～10:40 ネパールのコミュニティ図書館の現状

三宅 隆史 (シャンティ国際ボランティア会)

10:40～11:00 公共図書館による英語学習支援に関する研究

—東海地方における事例から—

小川 和子 (早稲田大学大学院)

11:00～11:20 学校理科教育と自然科学系博物館との連携に関する研究

山本 理 (東京農工大学)

(11:20～11:50 全体討論)

## 第14室 政策・運動

---

司 会 小林 繁 (明治大学)

10:00～10:20 少年法改正問題と教育福祉研究 —立ち直り支援と甦育—

竹原 幸太 (東京都立大学)

10:20～10:40 地方公共団体における共生型生涯学習の場づくりに向けた現況と課題

記伊 実香 (早稲田大学大学院)

10:40～11:00 知的障害者の学校から社会への移行期における教育要求／保障の構図

—障害者の生涯学習政策との関連から—

井口 啓太郎 (国立市公民館)

11:00～11:20 アメリカにおける医療・福祉のセイフティネットと地域住民の学習

—Community Health Center を中心に—

藤村 好美 (獨協大学・非常勤)

(11:20～11:50 全体討論)

## 第15室 地域・地域問題

---

司 会 南出 吉祥 (岐阜大学)

10:00～10:20 児童館職員の専門性に関する考察 —子どもの社会教育の視点から—

吉川 恭平 (東北大学大学院)

10:20～10:40 地域連携事業「生命学—いのちを考える—」体験学習プログラムの探求

飯塚 哲子 (東京都立大学)

10:40～11:00 子ども・若者の社会参加を支援する施設：Urban Studies Centre を事例に

三谷 高史 (仙台大学)

11:00～11:40 「地方」を生きる性的マイノリティの子ども・若者支援の展開

○堀川 修平 (埼玉大学・非常勤)

○正木 僚 (筑波大学大学院)

(11:40～12:10 全体討論)

# プロジェクト研究

## 「社会教育士養成の可能性と課題」

13:00~15:30

### 社会教育士の力量について考える

司 会 村田 晶子（早稲田大学）

齊藤 雅洋（高知大学）

報告① 「日本社会教育士会の取り組みからみた社会教育士の力量」

平井 康章（創価大学）

報告② 「成人学習理論からみた社会教育士の力量」

倉持 伸江（東京学芸大学）

報告③ 「本学会の職員論の蓄積からみた社会教育士の力量」

平川 景子（明治大学）

コメンテータ 内田 和浩（北海学園大学）

中田 スウラ（福島大学）

本プロジェクトの最終回として、3年間にわたる本プロジェクト研究の締めくくりとして、改めて社会教育士の力量とは何か、社会教育士の可能性とは何か、社会教育士が抱える課題とは何かについて総括する会としたい。その根幹にかかわる本プロジェクトの3名のメンバーから社会教育士の力量についてご提案をいただき、ともに考える時間としたい。

まず、2020年7月に旗揚げした一般社団法人日本社会教育士会代表理事の立場から、社会教育士の力量についてどのように考えているかについて、平井康章会員から報告をいただく。次に、成人学習理論研究の蓄積を踏まえながら、東京学芸大学の倉持伸江会員から、社会教育士に必要な力量とは何かについて報告をいただく。さらに、これまでの本学会における職員論の蓄積を踏まえつつ、近年の日本社会の動向を反映させながら、明治大学の平川景子会員から社会教育士の力量について報告をいただく。

# プロジェクト研究

## 「社会教育学における余暇・レクリエーションの再検討」

13:00～15:30

### 余暇・レクリエーションと教育論

司会 川原 健太郎（作新学院大学）

報告① 「余暇とレクリエーションの視点から〈社会教育〉を見直す」

藪田 碩哉（元勲日本レクリエーション協会人材開発本部長）

報告② 「近代教育からはみ出す生の諸側面 —子ども・若者の居場所研究の視角から—」

萩原 建次郎（駒澤大学）

報告③ 「ヤクザと教育 —佐藤忠男『長谷川伸論』の射程—」

花田 史彦（大手前大学／同志社大学／立命館大学・非常勤）

コメンテータ 青野 桃子（大阪成蹊大学）

歌川 光一（聖路加国際大学）

2022年度開始のプロジェクト研究「社会教育学における余暇・レクリエーションの再検討」の第2回目の企画として開催する。

6月集会と同様に、「余暇（レジャー）論」「レクリエーション」「学習論」「メディア」を視点に据え、3つの報告を予定している。具体的には、日本における余暇・レクリエーションのプロモーターとしての回顧を含めた、社会教育学・生涯学習論の意義と課題（報告Ⅰ）、子ども・若者の居場所研究からみる、余暇・レクリエーションを含む、教育論、教育学の視角の課題（報告Ⅱ）、近現代のメディア史研究から提示される、教育学外における教育論の展開（報告Ⅲ）に関わる報告となる。全体として、「余暇（レジャー）」が問題視されてきた1960～70年代以降の日本を想定し、社会教育論における余暇・レクリエーションの位置づけの現状と課題の整理を試みつつ、余暇・レクリエーションと教育論の接点を探っていく。

# ラウンドテーブル

16:00~18:00

## ラウンドテーブル①

---

テーマ 住民主体のコミュニティ・エンパワメント評価方法の開発

コーディネーター 堀 薫夫 (大阪教育大学)  
久保田 治助 (早稲田大学)  
荻野 亮吾 (佐賀大学)

報告 菅原 育子 (西武文理大学)  
似内 遼一 (東京大学)

柏市布施新町「みらいプロジェクト」関係者

内容 このグループでは、地域づくりを進める実践者が、自身と所属する組織、そしてコミュニティのエンパワメントの状況を評価できる方法の開発に努めてきた。今回のラウンドテーブルでは、これまでの研究の経過報告と、今後の方向性について議論を行う。

まず、実例に基づいて、コミュニティ・エンパワメントの過程を整理する。次に、どのような指標や方法でエンパワメント評価を進めていくか、研究チームで開発してきた指標や方法を示す。さらに、実際に都市近郊の地域で評価を行った結果と、そこから見えてきた課題を参加者と共有し、今後どのように評価方法を改善できるかを議論する。

## ラウンドテーブル②

---

テーマ 子ども・若者支援に携わる専門職の力量形成と研修等のあり方(2)

コーディネーター 南出 吉祥 (岐阜大学)

報告 生田 周二 (奈良教育大学)  
川野 麻衣子 (北摂こども文化協会)  
竹久 輝顕 (京都市ユースサービス協会)

内容 ユニバーサルの活動を中心とする子ども領域と若者領域から、専門従事者の研修の役割に関する報告(子ども領域)と近年、全国展開してきたユースワーカー養成講習の分析報告(若者領域)を受ける。また、ターゲット支援に関わる研究領域から、昨年度改訂した『子ども・若者支援専門職養成ガイドブックー共通基礎ー』による子ども・若者支援関係団体に対する研修実施を踏まえた報告を受ける。以上により、養成・研修を検討する。

### ラウンドテーブル③

---

テーマ 社会教育法 70 年と社会教育法制をめぐる課題（その 6）

—博物館法改正と関連法をめぐる（その 4）—

コーディネーター 長澤 成次（千葉大学名誉教授）  
 姉崎 洋一（北海道大学名誉教授）  
 栗山 究（東京女子大学・非常勤）  
 金子 淳（桜美林大学）  
 青木 加苗（和歌山県立近代美術館）  
 生島 美和（帝京大学）  
 瀧端 真理子（追手門学院大学）

報告 石川 敬史（十文字学園女子大学）  
 井上 敏（桃山学院大学）  
 宇仁 義和（東京農業大学）

内容 社会教育法 70 年を契機に企画された本ラウンドテーブルも今回で 6 回目を迎える。博物館法一部改正法が 2022 年 4 月 15 日に公布され 2023 年 4 月 1 日から施行されるが、現在、文化審議会博物館部会においては、都道府県教育委員会が基準を定めるに当たって「参酌するもの」（第 13 条）とされる「基準等」が議論されている。改正博物館法第 1 条に「文化芸術基本法」が加えられたことなども含め、今回は、今次改正を関連法との関係で問う機会にしたいと考えている。

### ラウンドテーブル④

---

テーマ こどもにかかわるおとなの学び —コロナ禍の地域子育て—

コーディネーター 井上 大樹（札幌学院大学）  
 宮嶋 晴子（九州女子短期大学）  
 榎 ひとみ（札幌学院大学）  
 大坂 祐二（名寄市立大学）

報告 調整中

内容 コロナ禍は、対面が中心であった地域子育て実践に困難をもたらした。一方、子ども食堂などでは、担い手同士でも支え合いながら親を支えるつながりを創出している。また、オンラインの活用で交流や学びの場を維持している事例もある。今回は、共同保育・学童保育、PTA・家庭教育関係等から報告をいただき、参加者からの情報も共有しつつ、コロナ禍の地域子育てがつくる「つながり」について事例にもとづき課題を整理したい。

## ラウンドテーブル⑤

---

テーマ 地域社会教育における「移動」の把握に向けた研究方法論的検討：  
移住者の生活史を手掛かりに

コーディネーター 大津 恵実（北海道大学大学院）  
溝内 亮佑（九州大学大学院）

報告 中山 博晶（九州大学大学院）  
松岡 悠和（京都府立大学大学院）  
井上 みのり（北海道大学大学院）  
村尾 政樹（北海道大学大学院）  
長谷川 実（北海道大学大学院）  
内田 弘（岩手大学）

内容 地域間「移動」の契機・交差点として、社会教育実践はどのような意味を持ちうるのか、生活史研究を手掛かりに検討する。移住を経験した対象者へのインタビュー調査報告を踏まえ、「移住者が地域住民として主体形成していく」過程に留まらず、「移動の自由」を基軸に地域社会教育実践に内在する多様な葛藤・学びの在り方について議論を行う。なお、「若手会員の萌芽的研究及び研究交流の奨励に関する助成」を受けた報告である。

# 共生への 学びを拓く

## SDGsとグローバルな学び

New Horizon  
for Living Together:  
SDGs and Glocal  
Learning

生きづらさを  
マコえて  
サステイナブルに  
生きる

SDGsとグローバルな学び

New Horizon  
for Living Together:  
SDGs and Glocal  
Learning

佐藤一子  
大安喜一  
丸山英樹  
編著

エイデル研究所

好評  
発売中

**Contents**

<p>第1部 持続可能な地域づくりとコミュニティ教育</p> <p>第2部 生きづらさを抱える子ども・若者の自立支援と社会参加</p>	<p>第3部 多文化共生社会への模索と国際交流</p> <p>第4部 グローバル時代の平和・人権学習、文化多様性とシティズンシップ教育</p>
---	---

A5判並製・260ページ  
ISBN 978-4-87168-676-1  
定価 2,530円  
(本体2,300円+税10%)

**エイデル研究所** 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-9  
TEL. 03-3234-4641 FAX. 03-3234-4644 <http://www.eidell.co.jp>

### 社会教育経営の基礎

定価2,750円

●山本珠美・熊谷愼之輔・松橋義樹 編著

「社会教育主事講習等規程の一部を改正する省令」に対応。「社会教育経営論」の基礎テキスト。

### 生涯学習支援の基礎

定価2,530円

●小池茂子・本庄陽子・大木真徳 編著

人々の生涯の学習と、学習意欲やそれらの学習活動を高めるための支援について体系的に整理解説。社会教育主事講習等の改正に対応。

### 画一化する授業からの自律

—スタンダード化・ICT化を超えて—

●子安潤 著 定価2,420円

スタンダード化、そしてコロナ禍による急速な学校のICT化の下で、教育の画一化が拡大する事態に警鐘を鳴らす。

### スクールティーチャー

—教職の社会的考察— 定価4,420円

●ダン・ローティ 著 / 佐藤学 監訳  
織田泰幸・黒田友紀・佐藤仁・榎景子・西野倫世 訳

全米、世界での教師教育改革の起爆剤となった名著中の名著。教職の複雑な現実を卓越した洞察とデータ分析で見事に描き出した。

### 近代日本の生活改善運動と〈中流〉の変容

—社会教育の対象/主体への認識をめぐる歴史的考察—

●久井英輔 著 定価8,250円

大正・昭和の生活改善運動を推進する機関誌等のメディアのあり方に注目。

### 子どもがやる気になる!!スポーツ指導

●佐藤善人 編著 定価1,870円

教育学・心理学…様々な観点から子どもの「やる気」の引き出し方を提案。

### 知る・わかる・伝えるSDG(全4巻) 目標1~17を網羅!

●日本環境教育学会 監修 各定価2,200円

I 貧困・食料・健康・ジェンダー・水と衛生 阿部治・野田恵 編著  
II エネルギー・しごと・産業と技術・平等・まちづくり 阿部治・ノ宮リムさち 編著  
III 生産と消費・気候変動・海の豊かさ・陸の豊かさ・平和と公正 阿部治・岩本泰 編著  
IV 教育・パートナーシップ・ポストコロナ 阿部治・朝岡幸彦 編著

### 近代日本の大学拡張 —「開かれた大学」への挑戦—

●山本珠美 著 定価9,240円

日本の高等教育機関における大学拡張の歴史を5期に分けて論じる。

### 地域学校協働のデザインとマネジメント

—コミュニティ・スクールと地域学校協働本部による学びあい・育ちあい—

●熊谷愼之輔・志々田まなみ・佐々木保孝・天野かおり 著 定価1,760円

組織的に取り組むためのデザイン、マネジメントの2つの視点から解説。

### 日本と韓国における多文化教育の比較研究

—学校教育、社会教育および地域社会における取り組みの比較を通して—

●呉世蓮 著 定価3,850円

日本と韓国の法制度や政策、言語的・文化的な教育活動を比較。

学文社 Tel 03-3715-1501(代) Fax 03-3715-2012 E-mail: eigyo@gakubunsha.com

---

## 日本社会教育学会 第69回研究大会プログラム

2022年7月28日発行

**【発行】** 日本社会教育学会事務局

〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8 東京農工大学農学部環境教育学研究室気付

E-mail : [jssace.office@gmail.com](mailto:jssace.office@gmail.com)    <https://www.jssace.jp/>

**【会費等納入先】**

ゆうちょ銀行 振替口座00150-1-87773 (口座名: 日本社会教育学会)

他金融機関からの振込用口座番号 〇一九 (ゼロイチキュウ) 店 (019) 当座 0087773

---